

企業診断システムにおける 階層間ギャップ分析

筑波大学大学院 システム情報工学研究科 経営・政策科学専攻

学位論文審査委員会提出 修士(ビジネス)論文

平成 20 年 1 月 25 日

学籍番号 200620865

氏名 尾崎 剛士

論文指導教員

住田 潮

Gap Analysis between the Hierarchies in Diagnostic Systems for Corporation Management

論文概要

近年、企業の不祥事が社会問題化してきている。コンプライアンス経営の言葉が叫ばれて久しいながらも、企業不祥事の報道は後を絶たない。企業不祥事は、その企業に直接関わっている人々だけでなく、株主、業界、社会全体といったところにまで影響範囲を持っており、業界全体、社会全体としてそれを取り除かなければ甚大なダメージを被ることとなる可能性が高い。

不祥事はもちろん、経営状態の悪化を招く原因を早期に発見することは、企業の継続的な発展に大きく貢献するものと考えられる。そこで我々は、一般的に企業診断に使われている財務諸表等の外在指標からではない企業診断システムの構築を3年前から共同研究企業と行ってきた。

3年間の研究・開発の中で、階層間の問題について興味を持ち、階層間のギャップから不祥事に繋がるような組織的病巣を発見することを本研究の目的とした。

Staff 層、Management 層に同じ内容の設問を投げかけその回答分布から階層間のギャップの顕著な場所を特定し、不祥事につながるような組織的病巣を見つけ出すことを意図した共通意識設問を作り、その回答分布に対してコンボリューションアルゴリズムを使用することで、統一した指標を作り上げた。統一された指標を基に、評価 Pattern 分析、組合せ分析という2つの分析方法を作成し、現在の病状とその組織的病巣を明らかにする方法論を確立した。上述した方法論を分析対象企業に適用することで、各社の階層間に存在する顕著なギャップ箇所、その組合せによって導きだされる組織的病巣が各社ごとに明らかになり、そのさまざまな症状に対して、原因治療法を提案することが出来た。

最後に、実際の企業不祥事を分析し、本企業診断システムと対応付け、その発生要因を我々が構築した分析のフレームワークで説明した。

目次

I. 序論	1
I-1 研究の背景と目的.....	1
I-2 本論文の構成.....	2
II. 企業診断システムの基本構成	3
II-1 企業診断システムの概要.....	3
II-2 質問表の設計.....	4
II-3 7Module,14Sub-Module.....	4
II-3-1 組織活力度.....	5
II-3-2 組織恒常性.....	6
II-4 階層間ギャップ.....	6
II-4-1 サンドイッチ分析.....	6
II-4-2 共通意識設問.....	8
III. 共通意識設問分析方法	9
III-1 設問の類型化.....	9
III-2 指標の設定.....	10
III-3 組合せ仮説.....	13
III-4 評価 Pattern.....	15
IV. 企業診断	19
IV-1 建設業 Corp 4.....	20
IV-1-1 評価 Pattern.....	20
IV-1-2 組合せ仮説.....	22
IV-1-3 まとめ.....	23
IV-2 コンサルタント業 Corp15.....	23
IV-2-1 評価 Pattern.....	24
IV-2-2 組合せ仮説.....	25
IV-2-3 まとめ.....	26
IV-3 自動車販売ディーラー Corp 17.....	27
IV-3-1 評価 Pattern.....	27
IV-3-2 組合せ仮説.....	29
IV-3-3 まとめ.....	30
IV-4 分析の結論.....	31

V. 企業における不祥事ケース分析	32
V-1 三井物産 DPF (Diesel Particulate Filter) データ捏造事件	32
V-1-1 事件概要	32
V-1-2 動機・背景	34
V-1-3 検証	35
V-2 不二家消費期限切れ原料使用事件	37
V-2-1 事件概要	37
V-2-2 動機・背景	37
V-2-3 検証	39
VI. 結論	41
VI-1 まとめ	41
VI-2 問題点と今後の課題	41
参考文献	42
謝辞	43